

症状マネジメントにおける看護師の役割

症状マネジメントにおける看護師の役割

兵庫県立看護大学
内布敦子

看護の質を構成する技術 痛みの緩和技術(片田1995)

- 痛みの読みとり技術
- 患者がいる場の読みとり技術
- 患者の内なる力を強める技術
- 患者の痛み刺激への介入技術

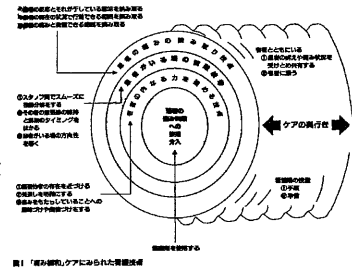


図1 「痛み緩和」ケアにあられた看護技術

Total Painへの統合的な看護介入技術 An Integrated Approach for S.M. By Larson P.

- 1. 痛みの定義を患者を含めたチームで共有
- 2. 痛みのメカニズムを明らかにする
- 3. 痛みの体験理解(患者の体験世界を理解する)
 - 知覚、評価、反応の各領域を丁寧に調べる
- 4. 患者とその周囲が行っている方略を明らかにする(患者のやり方を認め尊重する)
- 5. 患者のセルフケア能力に応じて知識・技術・サポートを行いエンパワー、または代償する
- 6. 評価し、修正する

麻薬による疼痛マネジメント: 医師との共働に見る看護の機能

- 投与の実施機能
- 投与中のモニタリング機能
 - 鎮痛効果のモニタリング(痛みの程度と性質の変化)
 - 副作用(便秘、吐き気、眠気)のモニタリング
 - 投与中の生活の変化、QOLの変化のモニタリング
 - 心理的な変化のモニタリング
- 患者情報の共有(情報提供、調整の機能)
- 投与量や補助薬の検討(患者参画、アドボカシー機能)
- 薬剤の管理(医療管理機能)
 - 麻薬処方量、投与量、残量の記録と管理

麻薬による疼痛マネジメント 看護独自の役割

- 患者の生活支援(特に副作用管理:排泄、睡眠、栄養)
- 患者のセルフケアを支援、代償(服薬指導)
- 患者の治療への参加を支える(アドボカシー)
 - 鎮静(セデーション)についての希望や意志の確認
 - 患者が医療者とコミュニケーションできるよう支える
- 家族のケア
- 関係する人々の意見の調整
 - 未告知の問題に対する倫理的判断を行う
 - 症状緩和に関する意見の相違を調整する

麻薬の管理技術1

- 投与方法の選択
 - 身体機能的な問題と生活便宜(QOL)の考慮
- 投与技術
 - 経口法:服薬、投与後の反応観察
 - 皮膚貼付法:貼付、投与後の反応観察、皮膚の状態
 - 直腸内投与:挿入、投与後の反応観察、直腸、肛門の状態
 - 皮下注射:投与中の反応、皮下組織の状態、感染、ポンプの管理
 - 静脈注射:投与中の反応、刺入部位の変化、感染、ポンプの管理
 - 硬膜外注入:投与中の反応、刺入部位の変化、感染、ポンプの管理
- 定時投与と記録